

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言… P1
- 電子車検証 読み取り方法レポート(後編：パソコンで読み取る場合)… P1,P2,P3
- 資源回収インセンティブ制度について… P4
- 各ブロック会議の開催結果/JARA総会懇親会への出席… P5
- 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業2月出荷状況と今期累計/2月新車販売・使用済自動車発生台数… P6
- 鉄スクラップ最新情報… P7 □行事予定・お知らせ/編集後記… P8

vol.169

電子車検証 読み取り方法レポート

(後編：パソコンで読み取る場合)

01

電子車検証について、前回ご紹介したスマホを使用した読み取り方法に引き続き、今回はパソコンを使用して実際に読み込みをしてみましたので、その内容をご紹介します。

(1)まずはICカードリーダーを購入

今回筆者はアマゾンでカードリーダーを購入してみました。商品検索の際は「ICカードリーダー 電子車検証対応」のキーワードで検索されることをおすすめします。と言いのも、「ICカードリーダー」だけで検索した場合、電子車検証の読み取りが出来ないクレジットカードやマイナンバーカード専用のICカードリーダーが表示されてしまうからです。ただし、「ICカードリーダー 電子車検証対応」で検索しても、表示された商品の中にクレジットカードやマイナンバーカード専用のリーダーが混在していますので誤って購入されないよう十分にご注意ください。

他のショッピングサイトでも同じように検索されることをおすすめしますが、不安な場合は国土交通省の電子車検証特設サイト内に動作確認済みICカードリーダー一覧が公開されておりますので、そちらの中の確認機種(いわゆる品番)をショッピングサイトの検索欄に入力して探すという方法もございます。

■国土交通省電子車検証特設サイト(動作確認済みICカードリーダー)

https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/assets/files/List_of_devices.pdf

スポンサー ⑧

NFCリーダー ライタ スタンド付き
セット **電子車検証** 新車検証 マイナン
バーカード Felica 対応 ICカードリー
ダー 非接触型 CIR315A-02KIT

左上図のように必ず「電子車検証」の文字が入っているものをご購入ください。

巻頭言

桜の咲く中の卒業式、場所によっては入学式も今年是对面で開催され、ようやく日常が戻ってきました。街も多くの人で賑わい華やかさを取り戻しています。そして、多くの団体が総会や周年行事、会議等を対面で開催するようになってきました。3年間のコロナ禍を過ぎ、人と「会う」、会えることが当たり前でない貴重な時間であったことを感じています。

そして、私達の周りには元々沢山の「ありがとう」が既にあったことに気付かされます。人と直接会い、「ありがとう」という感謝の気持ちを伝えると謙虚になれ、謙虚になると人との縁が結ばれ、縁から新しいビジネスが生まれる、そんな体験をしました。人と出会いチャンスが生まれる、今年は積極的に行動していきたいです。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

電子車検証 読み取り方法レポート (後編：パソコンで読み取る場合)

01

右図①電子車検証を立てかけるタイプは割高で1万円以上するものもありました。ちなみに筆者は右図②のICカードリーダーを購入しました。



SONY製 型番：RC-S300
購入価格：3,000円程度

(2)国土交通省指定の車検証閲覧アプリをパソコンにダウンロード

■ダウンロードはこちらから（電子車検証特設サイト内）

<https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/user/application/>

※ダウンロード手順等も掲載されております。

(3)電子車検証の読み込み

①車検証閲覧アプリを立ち上げる



アプリを立ち上げると上記の画面が出てきますので、左上の「読取開始」ボタンをクリック

②セキュリティコードの入力



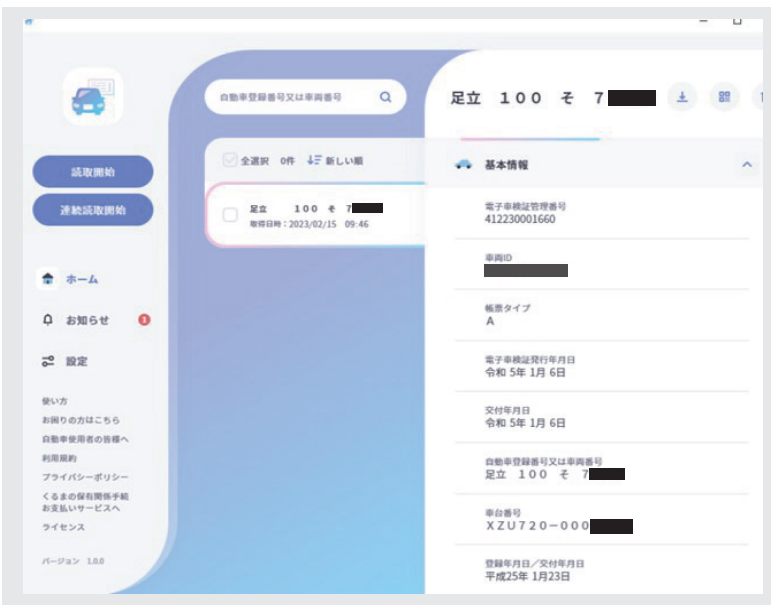
4桁のセキュリティコードを入力します。セキュリティコードは電子車検証の右下に記載されています。

③読み取り完了



無事読み取りが完了すると上記の画面が表示されますので、「完了」をクリック

④この画面で情報の閲覧が出来ます



(4)読み込み失敗例と成功例

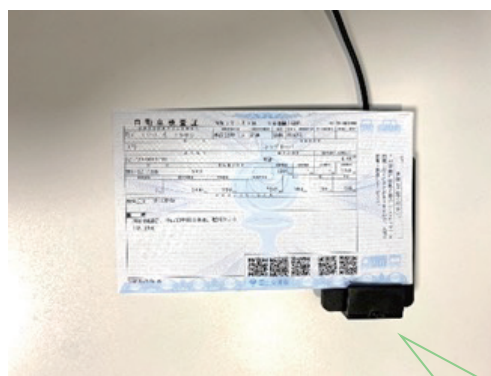
□読み取り装置と車検証の間に空間がある。



□読み取り方向が違っていている。



□成功例



何度か試して最適な位置を見つけ出さないといけません。

※電子車検証の下部に記載されているQRコードが気になりますが、陸運局に聞いたところ陸運局の業務のためのものであり、一般ユーザーが使用することを想定していないそうです。こちらは従来の車検証にもありますが、そのまま電子車検証に引き継がれているようです。

【最後に】

前号でも掲載したとおり、電子車検証には今までは表記されていた所有者名がICタグの中に格納されるため、紙面上では記載されていません。と言うことは、「購入した車の所有者が実はローン会社で残債も残っていた」といった可能性もあり、この問題を解決するにはユーザーにアプリを読み込んでもらい、所有者を証明してもらうしかないため、そういった部分で今後トラブルが発生するかもしれません。

■その他参考情報のリンク（国土交通省 電子車検証 特設サイト内）

- ・車検証閲覧アプリの概要と事前準備 国土交通省 自動車局
https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/assets/files/Overview_and_Preparation_for_the_Vehicle_Inspection_App.pdf
- ・車検証閲覧アプリの使い方
<https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/user/guide/>
- ・よくある質問
<https://www.denshishakensho-portal.mlit.go.jp/user/faq/>

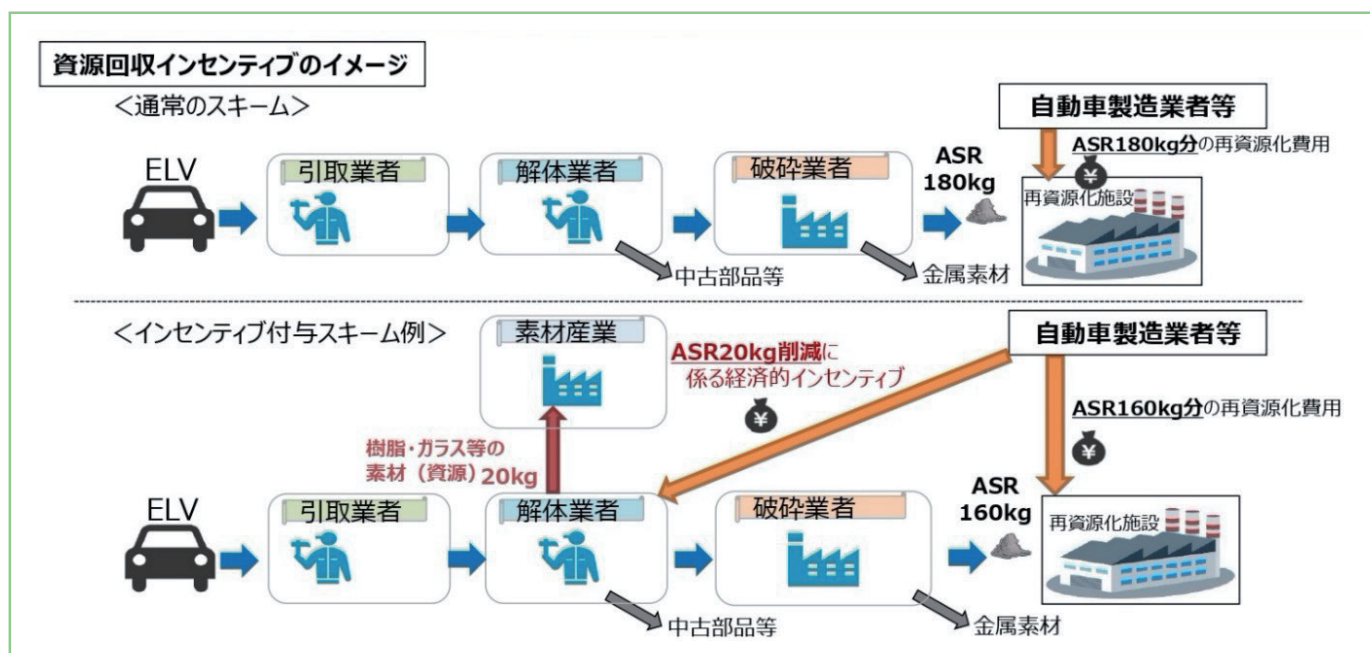


資源回収インセンティブ制度」をご存じでしょうか。

こちらはASR(自動車破碎残さ)の削減及び再資源化の高度化等を目的として、それらの目的につながるような素材の回収に取り組む解体事業者等に対し、その取り組みに応じて、預託されたリサイクル料金を原資とした経済的インセンティブを付与する制度として2020年の第51回合同会議で提案され、現在、国や関係機関で検討が進んでおります。(当機構も検討ワーキングに委員として参加しております)

この制度では解体事業者や破碎事業者が回収のメインプレーヤーとなりますが、「私の事業所は参加出来るのか」、「インセンティブ額はどのくらいになるのか」などの声が聞こえてきております。また、一部誤った情報も出回っているようです。本制度は現在検討や実証事業が進められている段階であり、詳細について未定の部分が多いため、**今回、まずはこの制度がどのような仕組み(イメージ)であるかを取り上げてみました。**

■資源回収インセンティブ制度のイメージ



出典：産業構造審議会産業技術分科会廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会 第57回合同会議 資料4-1「使用済自動車に係る資源回収インセンティブガイドライン(中間取りまとめ)について」

【解説】

- ▶ 本来 ASR(自動車破碎残さ)になるはずだった「樹脂」や「ガラス」等の素材(資源)を ELV(使用済自動車)から回収することで ASR の重量が減量され、その減量分の ASR 再資源化費用も減額となります。
- ▶ その ASR 減量分相当の ASR リサイクル料金※額を原資として、回収のための経済的インセンティブが付与されます。

※再資源化費用は自動車所有者が預託している「リサイクル料金」の一部を原資としています。

【備考】

- ※樹脂やガラス等を回収する工程として、解体段階と破碎段階の2パターンが想定されるため、解体事業者及び破碎事業者がインセンティブ付与の対象となります。
- ※地域や事業規模、所有している設備などに関わらず、希望される事業者が持続的に参画出来るスキームを検討しております。
- ※インセンティブの額は現在決まっておりません。なお、インセンティブは、リサイクル料金の設定時から考慮して含めるものではなく、あくまで ASR 重量が減少した結果として生じるリサイクル料金の余剰を原資とするものであることに留意する必要があります。

今後、本制度について動きがございましたら、随時ニュースレターで取り上げる予定です。

中国・四国ブロック会議の開催結果

日時：2023年3月2日(木) 場所：岡山サムライスクエア(対面)

前回(昨年10月)のブロック会議に続き、今回も対面会議で開催され、オブザーバー含め12名が参加し、情報や意見の交換が行われました。

中国・四国ブロックでは、会員の増強や支部の立ち上げに注力しており、今回は新たに立ち上がった愛媛県支部が参加し、自己紹介や機構の活動についての情報共有が行われ、ブロック内の繋がりがより一層増したと感じられる会議となりました。

また、各ブロックや支部に割り当てられる“活動費”について多くの意見が出されました。「活動を促進する予算としては、公正かつ活用しやすい仕組みにする必要がある」という意見があり、機構本部でも検討を行うこととして閉会になりました。



【会議の様子】

東北ブロック会議の開催結果

日時：2023年3月6日(月) 場所：仙台中小企業活性化センター(対面)

今回は久々の対面による東北ブロック会議ということもあり東北6県の支部長が参加され、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換がなされました。また当日は機構本部から木内副代表理事も来会され、奥野事務局長、事務局員の京野氏がリモートで参加しています。

本会議では率直な意見が多数あり、「ブロック活動費・支部活動費」に関しては「いまの活動費の在り方では使いづらく、有効活用されているとは思えない」、「抜本的な見直しが必要では」といった厳しい意見もあり、また会員増強に関しては、「まだ見逃している事業者はいるはず」と直近入会した会員の事例が紹介されました。現状報告では深刻な使用済自動車の入庫減が各支部から上がり、これからの業界の在り方について熱心な議論が行われました。



【会議の様子】

JARA総会懇親会への出席

3月8日(水)に、一般社団法人JARAグループ・株式会社JARA総会懇親会が東京都の浅草ビューホテルにて開催され、機構からは酒井代表理事、木内副代表理事、事務局が出席しました。

JARAグループの川島理事長、株式会社JARAの北島会長、矢島社長、経済産業省の金谷室長、そして酒井代表理事、それぞれからご挨拶をいただき、株式会社JARA白井顧問の乾杯のご発声を皮切りに終始賑やか雰囲気の中で進行していました。沢山の方々が一堂に会したことで、コロナ禍を経て改めて人と会うことの大切さが感じられる懇親会となり、参加者の方々同士の会話も一層弾んだなか、日本自動車リサイクル部品協議会の佐藤代表理事の中締めで閉会となりました。



【酒井代表理事の挨拶の様子】

2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 2月出荷状況と今期累計

06

上段 2月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204
21	13	52	0	1	30	0	1
92	225	555	16	6	454	6	30

クラウン HV AWS210	SAI/ レクサス HS250H	日産デュロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合 計
1	2	0	3	0	1	18	122
27	27	29	12	6	5	117	1,515

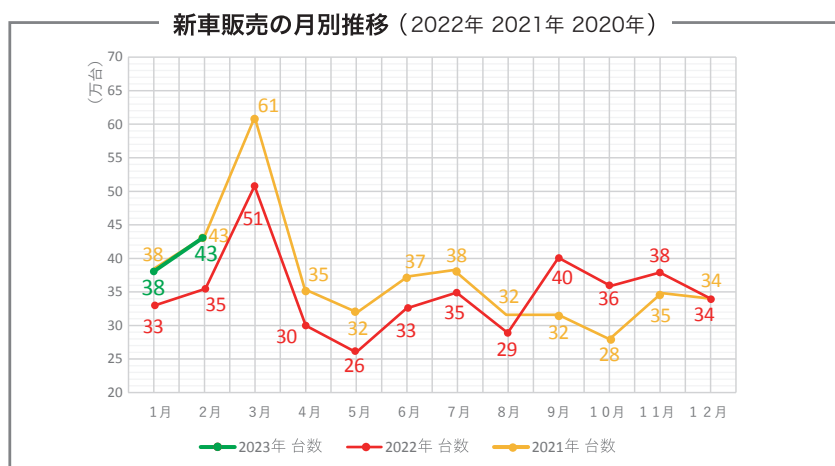
2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

2月新車販売・使用済自動車発生台数 ～2月の使用済自動車発生台数 前年同月比1.9%減～

07

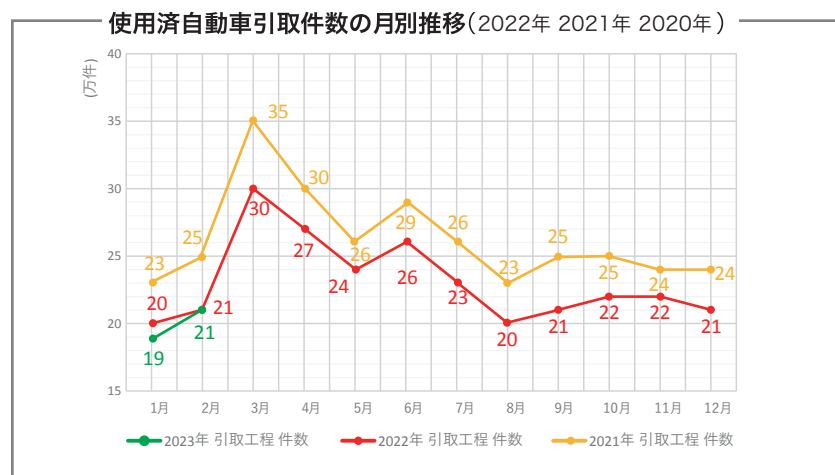
■2023年2月度 新車販売台数 426,726台（前年同月比120.3%）



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2023年	809,064	118.2
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年1月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況

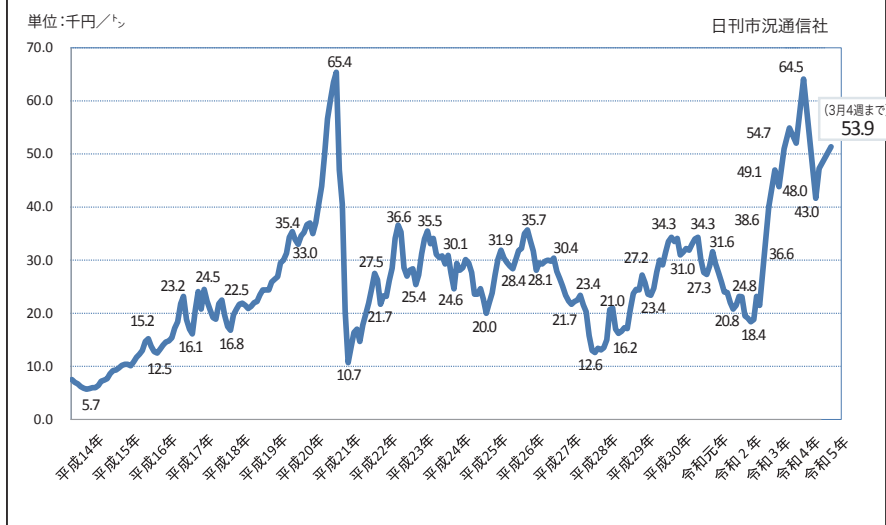


引取件数
205,997件（前年同月比 98.1 %）
フロン回収工程
181,946件（前年同月比 97.0 %）
解体工程
210,469件（前年同月比 97.0 %）

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

3月第4週(27日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



3月27日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	53,500～54,500	続落
	南関東	53,500～54,500	続落
	浜値	51,000～52,000	続落
名古屋		53,000～54,500	続落
関西	大阪	54,000～54,500	値下がり
	姫路	53,500～54,000	続落

韓国勢、日本産鉄スクラップ提示値を相次ぎ値下げ

3月第4週(20～24日)の日本産スクラップ輸出市場で、週後半に韓国メーカーの複数社が新規商談を実施した。24日に各社が提示したビッド価格は、いずれも日本国内相場を下回る水準に値下がりしている。

韓国大手の現代製鉄は、3月10日以来2週ぶりに実施した日本玉新規スポット入札で、24日にビッド価格を提示。H2を1トFOB・52,300円(前回比1,700円安)、H1&H2を同52,800円(同1,700円安)、HSを同56,300円(同700円安)とした。日本のサプライヤーには、東京製鉄の輸出阻止対応を警戒して、オファー価格の値下げに慎重な姿勢が多い。しかし、新規販売先が少ない状況下で日本側の販売希望量は増加しており、23日の事前オファーは10万ト規模に達したもよう。

韓国向け交渉ではこのほか24日に、セアベスチールが新断バラにCFR・58,500円(FOB換算値55,000～55,500円どころ)、大韓製鋼がH2に同55,600円(同52,500円どころ)、HSに同58,800円(同56,000円どころ)を提示。ポスコはHSにCFR60,000円(FOB換算値57,000円どころ)、シュレッターに同59,000円(同56,000円どころ)を提示した。

台湾やベトナム勢は日本玉の新規成約を避けて様子見姿勢を継続中だ。為替が円高に振れたことも成約ネックとなっている。

【関東地区】 電炉買値1,000円どころ続落 浜値は1,000～2,000円の続落

関東市場の電炉筋や湾岸商社・シッパー筋の間に3月25～27日にかけて、鉄スクラップ購入価格を値下げる動きが広がった。3月17日からの値下げに続く引き下げで、関東相場は続落する展開。為替相場の円高傾向や海外・輸出相場下落で、日本玉に割高感が生じたことが背景にある。H2炉前実勢価格は53,500～54,500円中心と1,000円どころ下落。H2浜値は51,000～51,500円中心、高値52,000円見当で、1,000～2,000円続落した。

【東海地区】 3月25日から主要電炉7社が一斉に1,000円下げ

名古屋地区の鉄スクラップ市況は値下がりした。域内電炉が3月25日から一斉に鉄スクラップの購入価格を一律1,000円どころ引き下げたためだ。東京製鉄が25日付で3月内2回目の値下げを実施。田原工場の特級価格は陸上・海上ともに54,000円、名古屋サテライトヤードの特級価格は53,500円となった。これに電炉他社も全社が即日追随。H2炉前実勢価格は53,000～54,000円、一部高値54,500円に下落した。

【西日本地区】 市況続落後も続落懸念を強め月末に

西日本地域の鉄スクラップ市況は一段安。東京製鉄の3月25日からの下げ改定を受け、概ね1,000円下げが一巡となった。その後も電炉側には鉄スクラップの在庫余力を抱えるところが多く、3月第4週から最終週にかけて荷止めや制限が相次ぎ見られるほか、輸出商談との価格差も残るため、続落懸念を強め月末に近づいている。大阪地区のH2炉前実勢価格は54,000～54,500円中心、姫路地区は53,500～54,000円中心に下落した。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、3月27日午後時点のもの)

行事予定

— 4月の主な行事予定 —

April

- 4月6日（木）
 - ・第1回広報部会（対面）
- 4月11日（火）
 - ・関東ブロック会議（対面）
- 4月18日（火）
 - ・中部・北陸ブロック会議（対面）
- 4月20日（火）
 - ・J-FAR（樹脂リサイクル社会実装事業）定例会（WEB）

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

2023年度 自動車リサイクル士講習会のお知らせ

2023年度の自動車リサイクル士講習会は、新たに自動車リサイクル士の資格を取得するための「**新規講習会**」、既に資格をお持ちで今回資格期限を迎える方向けの「**更新講習会**」ともに今年度と同様WEBを活用した形で開催を予定しております。

講習会スケジュールや詳細については、決まり次第ニュースレターや機構ホームページ等でご案内いたしますので、今しばらくお待ちください。

～自動車リサイクル士講習会とは～

本講習会では自動車リサイクル法を理解するところから始まり、①引取工程、②フロン類回収工程、③解体工程、④破碎工程、それぞれの実務について学ぶことができます。（特に解体工程に多くの内容を盛り込んでおります）

▼参考：2022年度版カリキュラム▼

<https://www.elv.or.jp/media/20/20221027-2022zirisikarikyuramu.pdf>

編集後記

まだコロナ禍とは言え先月13日をもってマスク着用義務の解禁がなされましたが、日本国民のほとんどの人がマスクを着用しての生活をしています。これは欧米諸国ではなかなか見られない光景だと思います。そして理由は色々あるにせよ、これは国民性としか言いようがない「日本流」なのでしょう。

既に3月は過ぎましたが、この時期になるとどうしても平成23年に起きた大災害、東日本大震災を思い出してしまいます。なかでも当時諸外国から驚きの称賛のあったニュースが印象に残っています。それは、あの混乱の中にも関わらず店舗を襲うなどの暴動が日本で起きなかったことだそうです。災害に乗じて自身の利益を得ようとする人は日本にはほとんどいないのです。これも「日本流」なのです。

また、東京の地下鉄駅ホームにいた人のこんな話も聞きました。震災時、あの揺れの中で地震のアナウンスで一斉に改札口に人が殺到しましたが、誰もがPASMOやSuicaを自動改札機に触れてから出て行ったそうです。こんな非常事態でも決められたことを守るのが日本人なのです。これも「日本流」。つくづく自分には欠けている真面目さを感じてしまいます。

「水と空気と安全はタダである」などと言っていた時代とは違い、今は全てにおいてうかうかしてられない世の中になってしまいました。世知辛い世の中と思いつつも、私達が受け継いでいる「日本流」をこれからも永遠と伝えていけるよう心優しい日本人として生きていきたいものです。

（広報部会長 田村 幸男）